

# 熊本県酪農業協同組合連合会創立70周年 らくのう牛乳発売50周年 記念祝賀会開く



隈部 会長



木村 県知事



関村 大臣官房審議官  
(農林水産省)



山口 熊本県議会議長

熊本県酪農業協同組合連合会創立70周年・らくのう牛乳発売50周年記念祝賀会が11月20日(水)、ホテル日航熊本「阿蘇」で開催されました。

開場之际、らくのう牛乳モニュメントが来場者の皆様をお出迎え。記念祝賀会第1部では、隈部洋会長より本会を支えて頂いたすべての関係者に謝意を伝えた上で、「様々な難局を乗り越えた協力と連携の精神が我々の宝であり力である。熊本の酪農をさらに発展させていく。」と主催者挨拶。続いて、木村敬熊本県知事が、関係者の努力に対し敬意を表し、「今後も熊本の酪農を守っていくのが私たちの使命のひとつ」と祝辞を述べられました。また、農林水産省 関村静雄大臣官房審議官、熊本県議会 山口裕議長から来賓祝辞をいただきました。続いて行われた功労者特別表彰では、吉田孝壽前会長を始め、元副会長の山田政晴氏(西阿蘇酪農協)、上村幸男氏(JA菊池)、川口司氏(同)、三角修氏(同)、松島喜一氏(熊本酪農協)の6名へ感謝状と記念品が贈呈されました。勤続20年を迎えた職員へ送られる永年勤続表彰では、対象職員総勢45名の代表として、増田靖指導部部長に表彰状と記念品が贈られました。

第2部では、JA熊本中央会の宮本隆幸会長のご発声により「らくのう牛乳」で乾杯。本会CMソング「きみがみつけたもの」の楽曲を担当されたBE THE VOICE アコースティックライブや、中国の伝統的な変面ショー等豪華なパフォーマンスで盛会な中に歓談されていました。



会場風景



表彰風景



功労者特別表彰

らくのう牛乳  
50th Anniversary

# ミルク フェスタ

11月2日（土）阿蘇ミルク牧場で「ミルクフェスタ～らくのう牛乳50th Anniversary～」を開催しました。熊本の大人気グルメが集結したマルシェ&キッチンカー、シャボン玉アーティストによるバブルショー、スペシャルライブなど、様々なイベントでお客様に楽しんでいただきました。台風の影響で開催自体も危ぶまれましたが、当日は2千名を超えるお客様に来ていただき、感謝いたします。本当にありがとうございました！



# 第8回九州連合ホルスタイン共進会開催

リザーブチャンピオン（株）有田牧場（ホワイト酪農協）所有牛



審査員 稲山氏

去る11月3日（日）、熊本県家畜市場で、九州・沖縄地区酪農団体協議会（中村 隆馬 会長）主催の第8回九州連合ホルスタイン共進会が開催されました。

この共進会は九州・沖縄各県のホルスタイン種の乳用牛の改良水準を見極め、今後の改良上の参考とし来年開催される第16回全日本ホルスタイン共進会に向けて基盤体制を整えることを目的に開催されました。

当日の出品頭数は九州各県から経産牛67頭、未経産牛58頭の合計125頭（うち熊本県からの出品頭数は経産牛22頭、未経産牛17頭の合計39頭）

審査員には、北海道ホルスタイン農業協同組合審査部長の稲山智明氏が招かれ、厳正なる審査が行われました。

審査の結果、経産牛の部グランドチャンピオンおよびシニアチャンピオンには福岡県 松永慎也氏所有牛のMSF DM プロント ダーミア ET号が、リザーブチャンピオン及びインターミディエイトチャンピオンには（株）有田牧場（ホワイト酪農協）所有のダビドソン レデイジャ

ガー号が選ばれました。

その他、経産牛の部の受賞はリザーブシニアチャンピオンには宮崎県榎木敦史氏所有牛のネットツリー アルマーニ ボルトン号が、リザーブインターミディエイトチャンピオンには、福岡県内田健二郎氏所有牛のランフオーラクト カルテット チーフET号が選ばれました。

未経産牛の部ジュニアチャンピオンには村田瑞晃氏（球磨酪農協）所有牛のスマイリー クララ ビー ラム キャンプ号が、リザーブチャンピオンには（株）有田牧場（ホワイト酪農協）所有牛のKM サイドキツク ジヤムパン号が選ばれました。



## 各部門名誉賞首席

出品番号	本牛名号	個体識別番号	出品県	出品者
107	ミルクツシユ ミラクル ジヤステイス チャリテイ	1656192934	鹿児島県	尾曲 敏和
203	KANO チャガ マークスマン ビリー	1664541670	鹿児島県	鹿屋農業高校
308	KM サイドキツク ジヤムパン	1681431534	熊本県（ホワイト酪）	（株）有田牧場
406	ビューテイガール サイドキツク エンタルピー	1678930118	福岡県	中村 毅
506	スマイリー クララ ビー ラム キャンプ	1663878210	熊本県（球磨酪）	村田 瑞晃
603	SKリバー サム パーマー	1647338129	宮崎県	川原 澄広
705	ランフオーラクト カルテット チーフ ET	1564670043	福岡県	内田 健二郎
810	ダビドソン レデイ ジャガー	1593912831	熊本県（ホワイト酪）	（株）有田牧場
908	LYUS マーシー エレナ	1574012710	宮崎県	坂之下 竜
1011	SFT GC ドアマン メリツク	1628719640	宮崎県	田中 賢志郎
1104	ハッピーグローリー ドアマン エメラルド	1385827251	熊本県（熊本酪）	松島 太一
1207	MSF DM プロント ダーミア ET	1565675337	福岡県	松永 慎也

# MOTHER'S



ダビドソン レデイ ジャガー ホワイト酪農協 (株)有田牧場

第8部

名誉賞首席

リザーブチャンピオン  
インターメディアイトチャンピオン

リザーブジュニアチャンピオン



第3部

名誉賞首席

KM サイドキック ジャムバン ホワイト酪農協 (株)有田牧場

ジュニアチャンピオン



第5部

名誉賞首席

スマイリー クララ ビーラム キャンプ 球磨酪農協 村田瑞晃



第11部

名誉賞首席

ハッピーグローリー ドアマン エメラルド 熊本酪農協 松島太一

# COLUMN — コラム —

## 生乳の風味と自給飼料との関係

2024年は、本会創立70周年、らくのう牛乳発売50周年の節目の年。らくのうマザーズの職員として、この節目に立ち会えたことを大変光栄に感じています。私は入会して28年目となります。これまで長らくの間、自給飼料担当として生産現場の技術サポートに従事してきました。入会当時と現在とでは、圃場の様子は大きく変化しました。作業機械は大型化し、コントラクターの活躍が目立つようになりました。また、作物ではトウモロコシやイタリアンライグラスなどの飼料作物が主流でしたが、今や飼料用イネが大きく面積を伸ばしています。特にWCS用イネの栽培面積は日本一となっており、耕畜連携も活発化しています。しかし、飼料を確保していこうとする生産現場の姿勢そのものは変わっていないように思います。

さて、話は少し変わりますが、19年前、本会内に「おいしい牛乳づくりプロジェクト」が立ち上がりました。当時は現在と似たような状況があり、余乳の発生による乳価の低迷が問題になっていました。このプロジェクトは、おいしい牛乳を生産することで、より多くの方に牛乳を飲んでいただき、消費拡大を図ることを目的とし、メンバーは21トータルプロジェクトチーム2名、生産本部5名、乳業本部5名の職員で構成され、生産現場から牛乳製造まで、部署の垣根を越えた取り組みとなりました。生乳の風味は、エサの給与状況や牛舎環境、牛乳の製造方法に至るまで、様々な要因が関係します。手始めとして自給飼料に焦点をあて、トウモロコシの二期作体系（畑作）、稲WCS

やイタリアンライグラスのロール体系（水田利用）、寒地型永年草利用（草地）の自給飼料3タイプと全購入飼料体系のそれぞれの生乳の味覚テストを行いました。結果は、一戸一戸の生乳の風味は明らかに異なっており、エサによっても風味は変わるというものでした。また、味覚テストの感想からは、土の状態、雑草の割合、発酵品質などが影響することが示唆され、改めて良質な自給飼料生産の重要性に気づかされました。

このプロジェクトでの経験は、個人的にも貴重なものとなり、畑を見るとき視野が広がったような気がします。畑を見て綺麗な状態か、加えて畑に足を踏み入れて変な臭いがしないかなど、必ず確認するようになりました。ただ、風味を良くするために特別なことをする必要はありません。基本的に忠実に、適切な自給飼料生産を行うだけで十分です。当然のことながら、それは乳量や乳成分にも良い影響をもたらします。

生産現場の環境は様々ですが、生産者の皆さんの不断的な努力があれば、熊本県全体の生乳生産量の安定化とともに、おいしい生乳を生産し、その価値を更に高めていけると私は思います。まさに一燈照隅です。牛乳の消費拡大と自らの酪農経営の安定化のためにも、引き続きおいしい牛乳づくりへのご協力をお願いいたします。



らくのうマザーズ 指導部長  
増田 靖

## 第3回酪農後継者育成塾が開催されました

生産本部 営農指導課

去る、11月6日（水）に第3回酪農後継者育成塾を開催し、27名が受講しました。



梁池健次郎牧場後継者  
仁嘉氏

今回は「優良農場視察」というテーマで、梁池健次郎牧場（JA菊池泗水中央支所）を視察しました。

梁池牧場は11月現在、フリーバーン牛舎で経産牛86頭（搾乳牛75頭）を飼養し、経産牛1頭あたりの年間成績は11,700kgと高泌乳牛群を管理されています。

繁殖成績においても平均搾乳日数174日、分娩間隔404日と県内でも非常に優秀な牧場です。

仔牛、育成牛、乾乳牛、搾乳牛の飼養環境の視察を行いながら、管理のポイントについて説明がありました。

梁池さんは日々の管理で以下のことを特に重要視されています。

- ①繁殖・移行期の管理が大事
- ②牛の観察を怠らない
- ③基本を怠らない

哺育管理については、出生後の仔牛は免疫能力が弱いため、出来るだけ早く初乳を給与することを心がけ、後継牛は全酪連若齢牧場に預託し、F1や黒毛和種を自牧場で管理され、「哺育のポイントとはとにかく観察することや初乳とワクチネーションが大事です。」とのことでした。

育成牛は若齢預託牧場より下牧してからの管理を重要視され、慣らし給与後イタリアンライグラス等に移行します。イタリアンライグラスはいつでも好きな時に食べたいだけ食べられる不断給餌を意識されているとのことでした。

移行期の飼養管理については、良い分娩をさせることを意識して、乾乳期の飼料もミキサーで混ぜ、不断給餌を徹底されています。しっかり食べさせることで分娩後の疾病も少なく、立ち上がりも順調で乳量や繁殖成績に繋がっているとのことでした。また、フレッシュ牛の管理を行うペンが無いいため、分娩後はすぐに搾乳牛群に混ざるので、餌食い等は注意深く観察し、対応しているとのことでした。

搾乳牛の管理については、搾乳時は乳頭を綺麗にすることやミルクカーの装着タイミングを意識しているとのことでした。削蹄師による年2回の定期削蹄、それ以外に蹄が悪い牛を発見した時に自家削蹄を行うなど、護蹄管理にも力を注がれています。



梁池牧場牛舎



後継者育成塾の様子

繁殖管理についても発情発見装置の導入、餌押し時や作業中等、牧場に居る際は観察を常に行うなど、早期の妊娠鑑定（エコー鑑定）や積極的な同期化も行っています。また、ゲノム解析も積極的に行い、特に娘牛妊娠率（DPR）や経産牛受胎率（CCR）などの繁殖形質や健康形質を重視した牛群改良も行っています。

最後に梁池さんから塾生に向けて、牛群管理について、「繁殖・移行期が上手いければ乳量等は自然と伸びるので、牛の観察や管理の基本を怠らないこと。また、分からないことがあれば、周囲の人に相談することが大事です。」と話していただき、受講者の皆さんも熱心に梁池さんの話に聞き入り、活発な意見交換ができました。

## 理解醸成活動 in 2024くまもと農業フェア

JA熊本中央会主催で去る11月9日、10日に「2024くまもと農業フェア」が開催され、熊本県酪農青壮年部協議会及び女性部協議会は搾乳・哺乳体験ブースや理解醸成活動ブースを出展しました。搾乳体験は約500名、哺乳体験は約200名の方が体験され、「温かかった！勉強になった。」や「楽しかった！もう一回やりたい！」といったうれしい声がたくさん聞こえて、多くの方に乳牛と触れ合っていただきました。

また、理解醸成活動ブースでは、乳牛や酪農家の仕事、牛乳出荷までの過程の説明を行い、ロングライフ牛乳やフルグラ、グッズ配布など両日で約2,000名の方々を対象に行いました。訪れた方からは「これからも頑張ってください。」「牛乳をたくさん飲みます！」などの応援のメッセージを頂きました。

今回の理解醸成活動を通して、消費者の方々に酪農の魅力をお伝えすると同時に酪農に対して興味を持っていただけたと思います。

今後も多くの消費者の方に1本でも多くの牛乳を手にとっていただけるように理解醸成活動に努めていきたいと思えます。

